

休日当番医など (5月1日～6月15日)

休日 当番医

※症状によっては、専門外となる場合がありますので、不明な場合は、当番医療機関にお問い合わせください。

5月3日(水)	長谷川整形外科医院	8時30分～11時30分	平五色町	25-5691
	かしま病院	9時～17時	鹿島町下蔵持	58-8010
	こうじま慈愛病院		錦町	63-5141
	いわき南クリニック		植田町	77-1663
ときわ会常磐病院	常磐上湯長谷町	43-4175		
4日(木)	中村病院	9時～17時	小名浜大原	53-3141
	なこそ病院		勿来町	65-7755
	さいとう内科クリニック		佐糠町	77-1001
	加沢胃腸整形外科		常磐水野谷町	42-2198
5日(金)	ニュータウン腎・内科クリニック	9時～12時	中央台高久	46-0606
	磐城中央クリニック	9時～17時	小名浜南富岡	53-3511
	呉羽総合病院		錦町	63-2181
	小松医院		遠野町上遠野	89-2041
	はたの眼科		常磐関船町	42-2040
7日(日)	中央台たなか眼科	9時～14時	中央台高久	29-1722
	たく整形外科医院	9時～17時	泉玉露	56-8833
	榎田病院		植田町	63-3202
	ゆうクリニック		植田町	63-1611
	比佐医院		常磐湯本町	43-2313
14日(日)	にしやま耳鼻咽喉科医院	9時～17時	泉玉露	56-8733
	なこそ病院		勿来町	65-7755
	いわき湯本病院		常磐湯本町	42-3188
21日(日)	新田目病院	10時～16時	平上荒川	28-1222
	すみたか内科クリニック	9時～17時	泉町滝尻	75-1560
	呉羽総合病院		錦町	63-2181
28日(日)	かもめクリニック	9時～17時	草木台	28-1010
	小林胃腸科・肛門科医院		小名浜元分	53-4466
	榎田病院		植田町	63-3202
6月4日(日)	常磐腎泌尿器クリニック	9時～17時	常磐下船尾町	43-1200
	山内クリニック		平谷川瀬	25-8181
	ふかや耳鼻咽喉科		小名浜住吉	58-1187
	なこそ病院		勿来町	65-7755
11日(日)	ときわ会常磐病院	9時～17時	常磐上湯長谷町	43-4175
	中村病院		小名浜大原	53-3141
	こうじま慈愛病院		錦町	63-5141
いわき湯本病院	常磐湯本町	42-3188		

県子ども救急電話相談 ☎024-521-3790または#8000 (プッシュ回線・携帯電話) 毎日 19時～翌朝8時

※変更となる場合がありますので、事前に当番医療機関、または消防署 (☎23-0119) へお問い合わせください。市ホームページでも公開してありますので、ご覧ください。

日曜 小児専門当番医 9時～12時

5月	7日	こんない子供クリニック	小名浜小名	73-8815
	14日	森のこどもクリニック	植田町	38-7227
	21日	若松医院	平大町	22-3838
6月	28日	ながい小児科	平上荒川	28-2535
	4日	しがこどもクリニック	鹿島町久保	58-5505
	11日	やまぎわこどもクリニック	郷ヶ丘	28-8686

休日 診療協力医 ※休日当番医の場合は、左表に記載しています。

【内科・外科】
山口医院 (平作町) 9時～17時 ☎24-1811
5月 7日、21日
坂本整形外科医院 (平豊間) 9時～17時 ☎38-2830
5月 28日

【泌尿器科】
ときわ会常磐病院 (常磐上湯長谷町) 9時～15時 ☎43-4175
5月 4日・5日、7日、14日、21日、28日
6月 11日

【精神科】
新田目病院 (平上荒川) 10時～16時 ☎28-1222
5月 7日、14日、28日
6月 4日、11日

【眼科】
中央台たなか眼科 (中央台高久) 9時～14時 ☎29-1722
5月 14日、21日、28日
6月 4日、11日

※このほかにも休日に診療している医療機関がありますので、あらかじめかかりつけの医療機関などで確かめてください。

休日救急歯科診療所
(総合保健福祉センター内) ☎27-8620
日曜日、祝日：9時～12時、13時～16時
(受付終了時間15時30分)

休日夜間急病診療所
(総合磐城共立病院内) ☎27-1208
平日：20時～24時 土曜日：20時～翌朝7時
日曜日：13時～24時 祝日：9時～24時
※6月から診療場所と診療時間が変わります。
詳しくは、5ページをご覧ください。

かかりつけ医を持ちましよう

「LIFE」緊急支援センター

救急車は適正に利用しよう

かかりつけ医の紹介・相談やこれまでの掲載内容は、医師会事務局へ (ホームページURL http://www.iwaki.or.jp/)

市民の健康教室



提供・問い合わせ (一社)いわき市医師会 ☎38-4201

円錐角膜

本来はドーム状であるべき角膜(くろめ)が円錐状に突出し、その中央部分が薄くなる状態を円錐角膜といいます。眼鏡やコンタクトレンズの処方を受ける際の検査で、強い乱視による視力低下がきっかけとなり見つかることが多い病気です。十～二十代で発症し、左右差がありますが、ほとんどは両眼性です。しかし、適切な治療を受ければ、その進行はゆっくりであり、三十歳以降はあまり進行しません。

原因はまだ十分に解明されていませんが、アトピー性皮膚炎に合併することや、家族性で発症することや多いことが分かっています。また、目をこする習慣も、発症や悪化の原因になるとも考えられています。

軽症や中等症の場合は、ハードコンタクトレンズで角膜の突出を抑えながら、視力も矯正します。症状が進行すると、角膜の腫れや濁りを伴うこともあります。その場合には、ハードコンタクトレンズを休むことで改善します。それでも改善しなくなったら角膜移植手術を行うこととなりますが、他の角膜の病気よりも手術後の経過は良好です。

高度管理医療機器クラスIIIに分類されるコンタクトレンズの処方では、円錐角膜も含めた眼疾患の診断が可能な施設で受け、眼科医に相談しながら、自分の目に合ったコンタクトレンズを選ぶようにしたいものです。

脳神経外科医療録②

けんこうQ&A

産婦人科②

片頭痛
片頭痛は偏頭痛とも書き、若い女性に多く見られ、目がチカチカする、変な模様が現れるなどの前兆に伴い、通常、一側の側頭部に限って突発的に強い頭痛で、睡眠によって比較的早く改善するものです。前兆のある片頭痛であれば比較的診断は容易ですが、前兆のない片頭痛の場合は、診断困難な場合があります。片側性、拍動性、日常動作ができないほどの重度の頭痛で、頭痛発作中嘔吐したり、音や光に過敏になる場合には、前兆がなくても片頭痛が強く疑われます。片頭痛の予防には、生活習慣の改善が大切です。誘発する食べ物として、チーズや赤ワイン、チョコレート、中華料理などに使われるグルタミン酸がよく知られています。また、飲酒やマッサージ、入浴、睡眠過多などでも起こることがあります。

治療としては、通常の鎮痛薬を用いますが、効き目がなかったり、重症例などの場合には、医師から処方される薬が必要となります。また、緊張性頭痛との相互作用によって、それぞれの頭痛が増悪する場合もあります。繰り返す片頭痛でお困りの場合には、脳神経外科、神経内科を受診してください。

片頭痛
片頭痛は偏頭痛とも書き、若い女性に多く見られ、目がチカチカする、変な模様が現れるなどの前兆に伴い、通常、一側の側頭部に限って突発的に強い頭痛で、睡眠によって比較的早く改善するものです。前兆のある片頭痛であれば比較的診断は容易ですが、前兆のない片頭痛の場合は、診断困難な場合があります。片側性、拍動性、日常動作ができないほどの重度の頭痛で、頭痛発作中嘔吐したり、音や光に過敏になる場合には、前兆がなくても片頭痛が強く疑われます。片頭痛の予防には、生活習慣の改善が大切です。誘発する食べ物として、チーズや赤ワイン、チョコレート、中華料理などに使われるグルタミン酸がよく知られています。また、飲酒やマッサージ、入浴、睡眠過多などでも起こることがあります。

治療としては、通常の鎮痛薬を用いますが、効き目がなかったり、重症例などの場合には、医師から処方される薬が必要となります。また、緊張性頭痛との相互作用によって、それぞれの頭痛が増悪する場合もあります。繰り返す片頭痛でお困りの場合には、脳神経外科、神経内科を受診してください。

更年期障害
A Q 更年期障害とは？
A 更年期障害とは、閉経を挟んで50歳前後に訪れる閉経を挟んで10年間の間に起こります。この時期には、加齢に伴う卵巣機能の低下により、女性ホルモンの分泌量が減少し、エストロゲン(女性ホルモン)の減少が原因で、様々な症状が現れます。心や体が更年期障害です。更年期の兆候として、最初に現れるのが月経不順です。月経量が少なくなったり、一般的に、月経が不規則になり、あつたり、なかつたりという不規則な周期が続いた後に閉経を迎えます。一年間月経がなければ閉経です。女性ホルモンの減少の影響は、女性ホルモンの減少により、生活習慣病のリスクが高くなるため、生活習慣を見直し、健康管理に努めることが大切です。

更年期障害
A Q 更年期障害とは？
A 更年期障害とは、閉経を挟んで50歳前後に訪れる閉経を挟んで10年間の間に起こります。この時期には、加齢に伴う卵巣機能の低下により、女性ホルモンの分泌量が減少し、エストロゲン(女性ホルモン)の減少が原因で、様々な症状が現れます。心や体が更年期障害です。更年期の兆候として、最初に現れるのが月経不順です。月経量が少なくなったり、一般的に、月経が不規則になり、あつたり、なかつたりという不規則な周期が続いた後に閉経を迎えます。一年間月経がなければ閉経です。女性ホルモンの減少の影響は、女性ホルモンの減少により、生活習慣病のリスクが高くなるため、生活習慣を見直し、健康管理に努めることが大切です。

休日当番医など